

<「知るっば!久留米」 令和2年10月8日(木) 12:30~放送分>

城島瓦 ～第2回～ 城島瓦の作り方(1)

<ゲスト： 渋田瓦工場 渋田良一さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

10月は、久留米の伝統産業であります『城島瓦』をテーマにお送りしていきます。

ゲストは、この方です。

ゲスト: 渋田良一さん (以下「渋田」)

城島町の渋田瓦工場、代表の渋田良一です。

よろしくお願いします。

坂本 よろしくお願ひします。

今月は、『城島瓦』をテーマにお届けしています。

第2回になりますが、今日は『城島瓦の作り方』についてです。

城島瓦の作り方といってもいくつもの工程があると思いますが、その中でも城島で採れた良質な原料、土についてお話していただきます。

城島瓦にはどんな土が使われているのでしょうか？

渋田 昔は家の前の田んぼから持ってきたりしていましたが、近隣の田んぼの土も採りつくした状態になって、30~40年前ぐらいからは、山土とブレンドしたものを原料として使っています。

坂本 田んぼの土が始まりなんですね。

田んぼの土って、そもそも瓦に合ったものなののでしょうか？

ということは、この土は筑後川がもたらしたということでしょうか？

渋田 そうですね。長い年月の中で筑後川が氾濫したりして、田んぼの上土(うわつち)をはねて、その下に層ができたという説もあれば、お百姓さんが踏み固めてできた土とも言われています。

坂本 その土を瓦にしていけるわけですが、

その原料をどのように瓦にしていけるのか、その過程をお聞きしたいと思います。

まずは、その土を粘土にしていけるんですね？

渋田 そうですね。実際には、専門の粘土屋さんがいらっしゃいます。

その方が山から土を採ってきているのですが、深いところでは 20m ほど掘っているみたいですね。
広川町からは青い土、熊本の南関というところからは赤土を採ってきています。
粘土は、瓦を作る過程で粘りがあって、焼いてシャンとしてないといけません。
今は山から採ってきた土を混ぜて、瓦に適した粘土を作っています。

坂本 以前は、城島周辺の田んぼから土を採っていたけれども、あらかた採りつくしたので、
遠方の青土や赤土などをブレンドして手広く使っているということですね。
また、現在では、粘土屋さんが市外から土をたくさん集めてきて、それぞれの瓦屋さんに届ける分
業のような感じになっているんですね。
瓦作りも時代とともに変わるものなんですね。

渋谷 全国的な瓦の産地でもそうなのですが、より瓦作りに適した粘土の採掘場所やブレンド数が多くな
るのではなかろうかと心配しております。

坂本 粘土ができれば、次は成型をしていくんですね。
瓦というのは複雑な形をしていて、なおかつ屋根にのせた時に同じように重なって、最終的にひと
つの屋根になるので、瓦一枚一枚を正確な形にするのはかなり難しい技術が必要ではないでしょ
うか？

渋谷 そうですね。昔は瓦工場の屋根は低くて座ってやるような手仕事が多かったですが、今は真空押出
機という機械を使って、粘土を真空状態にして瓦の原形に押し出します。
それが平たい板だったり、丸瓦の元の丸だったり、色々な型があって、それが連結して粘土がビュー
っと出てきます。
それを一定の長さに切り落として、プレス機にかけるという流れになります。

坂本 お話をまとめますと、昔はひとつひとつ手で作っていたということですね。
江戸時代など、それはさぞかし大変だったでしょうね。

渋谷 もう、それは大変だったと思います。
機械化されたのは、親父の代でしたね。

坂本 なるほど。粘土を機械でギュッと押し出して、それを切っていくんですね。
実は先日、工場にお邪魔して実際にその機械を拝見させていただいたのですが、なかなか大きな
機械でしたね。
ギュッと粘土を押し出して、スポンと切って、並べて乾燥させるという感じでした。
ぜひ、もう一度見たいと思っています。
先週もお話をうかがいましたが、屋根瓦とは別に城島には鬼瓦がありますが、鬼瓦も型があるんで
すか？

渋谷 そうですね。同じものをたくさん作るということで、まずはその型を作ります。
型は石膏でできており、粘土を手で押し込んで作ることが多く、同じ形の瓦を量産できます。

坂本 ということは、鬼の形に凹んでいる石膏の型に、粘土を押し込んで、抜いて乾燥させて固めるということですね。
鬼瓦は、屋根瓦と違ってひとつひとつ手作業で作っていくんですね。

渋谷 平たい板を組み合わせてみたり、鬼だと特殊な形が多いので、道具を使って一部盛り上げたりします。
鬼瓦のサイズは大小さまざまで、大きいものだと6畳間に入りきらないものもあれば、屋根瓦ですと、屋根の勾配に合わせる必要もあり、色々なケースがあります。
そのため、その都度、紙型（かがみ）を作って、仕上げていきます。

坂本 鬼瓦は、本当に手間がかかるものなんですね。
まだまだお話はつきませんが、渋谷さん、興味深いお話をありがとうございました。
城島瓦に関する質問やお問い合わせは、三瀨総合支所2階久留米南部商工会内にあります城島瓦協同組合までお願いします。
城島瓦協同組合の電話番号は、0942-64-3649です。
次回も引き続き、『城島瓦の作り方』をテーマにお届けします。
渋谷瓦工場、渋谷良一さん、来週もよろしくお願いします